

令和6年度 自己評価書

学校名	和歌山市立 鳴 滝 小 学校
校長氏名	藪本 みゆき
作成日	令和 7年 1月 6日

1 教育目標

最後まであきらめずによく考え、感謝の気持ちを忘れず、心身共に健やかな子供の育成 ～知育・徳育・体育のバランスを大切にした生きる力を培うことを目指して～
--

2 本年度の取組についての評価

	確かな学力の向上	豊かな心の育成	健やかな体の育成	地域を通して社会性を育てる学校
指標	・全国学力・学習状況調査や県学習到達度調査で正答数の県平均値を上回る ・児童がわかる授業、児童主体の授業を実践する(教員90%以上)	・学校が「楽しい」と感じる(児童90%以上) ・「ルールやマナーを守って授業を受けることができた」(児童80%以上)	・毎日、朝ごはんを食べてくる(児童90%以上) ・体力テストの平均値を県平均以上を目指す	・保護者アンケート「子供の活動の様子をわかりやすく伝えている」(保護者90%以上) ・地域への情報発信が行えた(保護者90%以上・地域の方等の声)
重点目標【P】	◎基礎・基本の確かな学力 ◎児童主体の授業の推進 ○家庭学習の定着 ○読書活動の推進	◎人権教育を推進すると共に、人権意識の高揚に努める ◎道徳教育を柱とした教育活動の充実	◎基本的生活習慣の確立 ◎体力向上の推進 ◎危機回避能力の育成 ○人間の体を知る	◎地域との交流を様々なところで行う ○「学校だより」やホームページでの情報発信を継続 ○地域の養護施設を知る
取組の状況【D】	○「和歌山の授業づくり基礎・基本3か条」の徹底 ○「わたしの作文」に学校全体で取り組み、作文指導を行う ○「昼学」の時間をしっかり活用し、基礎学力の定着を図る ○まず個人思考で自分の考えをもち、その後、友達との対話や発表を通して語彙力を増やす授業づくりをする ○必ず「なるたきタイム」の時間を確保し、読書を習慣づける ○家庭学習にも「読書」を組み込む	○保護者と児童のよさを共有しながら児童を心豊かに育てる ○「特別の教科 道徳」で児童が考え話し合う活動を大切にする ○いじめの未然防止・早期発見・早期対応に努める ○情報モラルやネット社会に潜む危険についての指導を促進する ○各行事において児童が主体的に関わる機会をもつ	○「早寝・早起き・朝ごはん」の推奨 ○体育科での活動時間を多く取り入れられるように工夫する ○縦割りグループでの運動を計画的に実施する ○避難訓練や交通安全教室を計画的に行い、危機回避能力を育成する ○「保健」の教科学習や保健行事を行うなかで、自分の体について知る	○児童の少しでも良いところを保護者に伝え、保護者の子育てや教育に対する意識を高める ○地域の方々と一緒に花を育てる活動を通して環境整備に促進する ○地域活動に参加し地域との交流を促進する ○地域の養護施設を見学し、実態を把握する ○「学校だより」を地域回覧すると共に児童の活動の様子をホームページで発信する
取組の成果と課題（評価結果）【C】	・全国学力・学習状況調査は、考えようとしている跡があり無回答はなく、少人数のため一番憂いしない ・「毎日の勉強がわかる」低学年で89%、中学年で80%。2学期から各担任が必要だと考える児童の保護者と話し合い、補充学習を行っている。「わかった」が増え、補充学習の時間を楽しみにしている児童がいる。授業中に「わかった」が増えるようにしたい ・個人思考の時間をつくり、考えをもてるようになっている ・今年度は「わたしの作文」に全児童で取り組み、低学年も書けるようになってきた。参加賞はもらんだが、よい作文は放逐してもらったDVDを見ていただいたりすることも励みにし、保護者も喜んでくれている	・人権講演会は保護者と学校運営協議会委員が、一緒に学習した。学校が避難所になった場合のことを考えた人権学習であった。なかよし同士で話し合わず、同じ番号の者同士がペアになり、その後、ペア同士がくっつき4人で話し合うといった具合で、新しい感覚だった。ペアで話したことを4人で話し、お互いの考え方の違いがよく明らかとなり、新鮮であった ・教員がアンテナを高くし、察知し指導していくことが大切である。悪気がなく児童が言ったことをそばにいる児童たちもそのまま話さず入っていく。相手が気分が悪くなるということには至っていない。教員は迷わず指導していいことが分かった。ときには子供の方が知らない、経験がないことから残酷であるため教員が見逃したり聞き逃したりしてはいけない ・世界で起きている戦争、日本でもかつては戦争が行われた歴史があり、日本は戦争をしないことを法律で決めていることなどを含めて平和学習を行い、改めて命の大切さについて学習した	・児童は大、昼休憩は暑さ寒さ関係なく運動場で元気に外遊びをし、体育委員会からも放送で常に呼び掛けている ・ファミリー活動(縦割り活動)で月2、3回運動場や体育館で運動する機会を設定している ・「世界津波の日」の訓練時には、「津波三原則」や「命でんごん」の学習も行った ・避難訓練では最終的に運動場に避難し、安全確認や人数確認等をする ・避難訓練で月1回体を動かす遊びや体育的要素のあるものに取り組んでいく。児童も様々な運動に携われ生涯健康のための選択肢も増える ・運動会練習中と当日の熱中症対策としても10月第3土曜日開催が時期的にもよかった ・「早寝・早起き・朝ごはん」などの基本的生活習慣の確立や家庭学習については児童が習慣になるまでは家庭にお願いするしかない。	・「学校だより」を地域回覧発信を継続させていただき、HPでも発信した ・有効地区「ふれあいおたのしみ会」で年寄りとの交流内容を児童が考え、普遊びで楽しく交流し、その後、昼食も一緒にさせていた ・「ふれあいまつり」の交流は少し残念であった。今年度は、児童が考案した3種類のパンを鳴滝小学校のパン屋に卸していただき、児童が販売する予定であった。しかし、暴風警報が発表されたため、教員が代行販売を行った。120個のパンは15分で完売した。保護者の方々も児童をつれてきていただき、全児童ではないが地域交流ができたことはよかった ・児童の販売経験のため、休日参観終了時に受注販売を計画した。180個の注文があり、児童は販売経験もすることができた。喜びと共に大変さも味わうことができ、社会性も経験できたこととと思われる ・委員会活動で地域の方と共に食物や花を育てる活動を行うことができた ・親子で滅災教室を受け、同じ目標で考えられるのではないかと思う
改善方法【A】	・複式授業は直接授業時と間接授業時があり、児童にとっても大変ではあるが、間接授業中は児童は主体的に学習に取り組むことになり、よいところもある。しかし、児童がそのようになるためには教員の努力があり自信があつてこそであるため、しっかり研鑽していきたい ・継続して教職員が同じ目標や思いで取り組んでいきたい ・「わたしの作文」は、自分のことを書くため書きやすい面がある。継続しつつ、読書感想文などにもトライしていく ・国策のGIGAスクール構想により「書くこと」が置き去りにされないように継続して取り組んでいきたい ・家庭学習は習慣づくまで保護者の協力が必須であり、入学説明会や入学式で説明し、1年生からお願いしていく	・「学校が楽しいと感じる」低学年は100%、中学年は75%という結果であり、高学年は学習が難しくなるからだと考えられるため、支援していきたい ・「そらじを一生懸命している」低学年は99%、高学年は92%という結果であると共に、縦割り活動で行っている。継続していきたい ・現在、間バイトも低年齢化し、小学校高学年も犯罪に巻き込まれている等 ・児童ポルノが1位で、喫煙が2位という結果だそうである。スマートフォン等 ・高価なものを所持させることの責任と、それを使用することによって起こる様々なトラブルについてもしっかりと責任をもってもらえるように啓発を続け、学校でも児童への全体指導や年齢にあった指導と共に、教員が見逃さないよう教員の意識を高められるように指導していきたい ・「家の人」に学校でのごとき(話す)低学年は67%、中学年は73%という結果であった。聞いている保護者が多いためか、低学年の方が話していないという結果であり、保護者に啓発していきたい。	・本校児童数では運動会は午前中開催が好ましく、定着したと考える。ファミリー活動(縦割り活動)で取り組んだものを種目として取り入れているが、2年間、終了時間を計画より超過した。今年度は種目数を減らしたが、児童の出席率が上がった。練習に時間をかけすぎず、児童の負担にならないよう、体育科の教科としての授業が練習のために圧迫されないようにしたい ・運動会練習中と当日の熱中症対策としても10月第3土曜日開催が時期的にもよかった ・「早寝・早起き・朝ごはん」などの基本的生活習慣の確立や家庭学習については児童が習慣になるまでは家庭にお願いするしかない。	・地域の方々に今後も継続して学校に関わっていただけたら学校でありたい ・学校開放月間や授業参観時だけでなく、保護者や地域の方にも自由に訪問していただけたらいいが、仕事をされている方が多く難しいのが現状 ・今年度はトリプル(インフルエンザ、マイコプラズマ肺炎、コロナ)感染症に悩まされた。敏感すぎる対応はしないまでも、継続して注意していきたい ・保護者アンケート「子供の活動の様子をわかりやすく伝えている」86%という結果であった。立場は違っても児童への思いは同じである。地域、保護者、学校が協力していきたい ・有効な学習に、多様な中継ぎしていただけたらおかげで、現場の現状の一端を察せいただけたことができた。本校職員も模倣できようことができ、貴職員の大変さを感じることができた。来年度は貴園からの教員児童はないが、校区内にある施設として、話し合いは協力体制を持続していきたい

3 その他の課題

・学校運営協議会時、「働き方改革について」話し合った結果、複式学級は授業準備が単純に考えても2学年ある。複式学級が課題だという意見をいただいた ・11月の休日参観に「ありがとう集会」を計画し、学校運営協議会も同時に行った。親子一緒に滅災教室も受けていただいた。その後は人権教育講演会も行った。下校前に子供たちのパンの受注販売を入れるを得ず、下校時刻が大幅に遅れてしまった ・昨年度同様、児童の生きる力を育むため、運動会を5、6年生に考えさせ司会も行わせた。ただし、昨年度の児童との違いからダンスについては全校ダンスのみを5、6年生で考えさせた。違いがあつて当たり前であり、教員が見極めた結果である。鳴滝小学校独自の運動会であることはよい点であるが、児童が準備も行い、自分たちの運動会をつくりあげるため、児童が動きづくめになることが課題である。地域や保護者参加用種目も取り入れ、多くの方が参加して下さったが、児童以外には保険のないことも課題である ・「学校運営協議会」を開くにあたり、第1回は授業参観日に開催し、第2回は休日参観と同時に開催、第3回は今年度は喫煙防止教室と一緒に受けていただいた。本校の取組を少しでも知っていただけたらと授業参観ではないことも見ていただいているが、学校の都合に合わせていただかなければならないため、皆さんの意向をお聞きしてして日程調整することができずに行っていることが課題かと思われる ・こどもセンター事業で子供たちのために「お餅つき」を計画してくれた。多くの児童が申し込み、日本の伝統に触れるいい経験になりありがたいことである。が、何か事が起これば、みなさんのせつなりの児童たちへの好意が裏目に出かねない ・有効地区主催「ふれあいまつり」の本校の取組を有効地区公民館長が「よい青少年の褒章」に推薦、本校の取組が表彰されたことは大変喜ばしい。しかし、推薦や表彰はあくまで結果であることを忘れず、おごらず、様々なことに取り組んでいかなければならない
